

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センターと  
東京大学宇宙線研究所との間における重力波天体観測の科学協力に  
関する合意書

重力波望遠鏡の稼働がはじまり史上初の重力波検出への期待が高まっている。重力波天体を同定し、その詳細を調べるためには、可視光赤外線による広域撮像観測が不可欠である。KAGRA重力波望遠鏡を有する宇宙線研究所と、大視野の可視撮像装置を稼働させ、またTAO 6.5mという赤外線波長域で最高クラスの感度を有する望遠鏡を建設している理学系研究科附属天文学教育研究センターとが、重力波天体観測において共同研究を行うことは大いに意義のあることであり、この分野へ大いなる貢献をすることは間違いない。上記に鑑みて、東京大学宇宙線研究所と東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センターは科学協力に関する合意書を締結する。

両者は、相互互恵の精神にのっとり、以下のことを行う。

1. 宇宙線研究所は、主として重力波の検出をめざす。
2. 天文学教育研究センターは、主として重力波天体を光学同定し、追跡観測を行い、重力波天体の物理的性質を調べる。
3. 両者は、研究グループの了解に基づき、適時に情報の交換と共同研究をおこなう。
4. この合意書の有効期間は署名が完了した日から3年間とし、双方の協議により更新できるものとする。

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

センター長 吉井讓

2015年1月19日

吉井讓

東京大学宇宙線研究所

所長 梶田隆章

2015年1月19日

梶田隆章